

## 第1回新人助産師研修

於：山口県看護研修会館

令和6年8月3日（土）に、新人助産師研修開講式と第1回新人助産師研修が開催されました。今年度の新人助産師は18名、新人助産師研修を開催は全6回の開催となります。



開講式後に、第1回新人助産師研修・公開講座が開催されました。

### 【新生児のフィジカルアセスメント】

講師：木村 献氏（山口大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター）



「ことばで自分の異常を伝えることが出来ない新生児」の訴えをキャッチするために必要不可欠なフィジカルアセスメントについて、家族が気になる所見等、臨床ですぐに活用できる視点も含め、ご講義いただきました。また、母乳育児支援としての視点も大変学びになりました。

### 【新生児の看護】

講師：三木 砂織氏（山口大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター）



「新生児看護」に欠かせない新生児理解を深める内容に加え、新生児とその家族へのケアについても臨床での様々な体験を交えてご講義いただきました。新生児看護における多くの重要な視点や家族との関わりについて幅広く学ぶことができました。

講義終了後に行なった自己紹介では、助産師を目指した理由や、就職後数ヶ月経過している今の状況や気持ちなどを語ってくれました。

今後も、助産実践能力の向上を図るため様々な研修を計画しております。公開講座へのご参加、お待ちしております。

（山口県看護協会助産師職能委員会）

## 第3,4回 助産師実践能力向上研修



於：山口県看護研修会館

令和6年12月7日(土)、第3,4回 助産師実践能力向上研修が開催されました。

第3回助産師実践能力向上研修では、山口県立総合医療センター 婦人科診療部長 田村博史先生に「不妊・不育の悩みをもつ女性の支援」についてご講演頂きました。

「妊娠の生理、不妊症診断治療」「生殖医療領域における倫理的課題」「不育症、山口県助成制度」といった視点から詳しくお話し頂き、不妊・不育に悩む方の支援について知識を深めることができました。アンケート内では、①PGTの自己負担額 ②県総でのテnderラビングケアの取り組みについて質問があり、田村先生より以下の回答を頂きました。

<PGTの事故負担額について>

保険適応外で私費診療になります。排卵誘発して体外受精、顕微授精をすると、60-70万円程度、PGT検査としての(受精卵)胚の染色体検査、解析に胚1個あたり、4万円程度、胚移植をすると、12-15万程度なので、受精卵(胚)を数個検査に出すと、100万円程度はかかるかと想定されます。

<県総でのテnderラビングケア>

当院では、決まったマニュアルがあるわけではありません。頻回に診察、超音波をして安心していただく、症状があるときは受診、診察する医師、看護師などのスタッフが患者の話をよく聞いたり、親身になって相談をうけるなどの、対応をすることになります。できるだけ不安や心配を軽減できるように心がけることかなと思います。

第4回助産師実践能力向上研修では、山口県立総合医療センター 総合周産期母子医療センター長 佐世正勝先生に「臨床薬理(妊娠と薬)」についてご講演頂きました。

「妊娠・分娩と薬剤」「授乳と薬剤」「RSV感染症とワクチン」について詳しくお話し頂き、臨床薬理についての学びを深めるとともに、周産期に関わる医療者として正確な情報を知識として持つことの重要性も学ぶことができました。アンケート内では、自閉症のリスクから、葉酸の妊娠18週以降の内服は避ける方が良いという意見への見解についての質問があり、佐世先生より以下の回答を頂きました。

葉酸投与には2種類あります。一日4mg(実際はフォリアミン5mg)服用と1日0.4mg(400マイクログラム)服用です。

4mg服用は、神経管閉鎖障害児の妊娠既往がある妊娠希望女性が適応(保険適応はありませんが、産科診療ガイドラインで)となります。妊娠前から器官形成期終了まで(妊娠11週6日まで)服用。以後は、中止あるいは0.4mg服用。

0.4mg服用は、すべての拳児希望女性が対象です。妊娠中も授乳中も服用が望ましいです。

ASDが問題となったのは高用量(4mg)を妊娠中も続けた場合です。「高用量を続けても副作用はない」という論文も多く出ており、結論は出ていません。ただし、不要なものは摂取する必要はありませんので妊娠11週6日で終了です。

サプリ0.4mgが一般女性に有用で副作用がないことは、国が認めています。



## 第6回新人助産師研修

於：山口県看護協会会館

令和7年2月15日（土）、第6回新人助産師研修が行われました。  
最後となるこの研修においては、それぞれの研修生が臨床で経験したことを事例にまとめ「心に残った場面」として発表し、ディスカッションを行いました。

どの発表もよくまとめてあり、受講者同士が共有するにふさわしい内容でもありました。妊産褥婦への関わり方に正解は無く、先輩に相談したり試行錯誤をしながらの関りであったが、ディスカッションでは意見が飛び交い盛り上がりました。職場は違っても目指す志は同じであり、常に「自分だったらどうするか？」と真剣に向き合えた会となりました。

それぞれの発表に対し山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻准教授 亀崎明子先生から講評をいただきました。事例に対する講評に加え、発表者個人の思いや熱意に対する称賛やねぎらい、時にはご自身の経験談も踏まえてのお話に皆が引き込まれました。



閉講式では、研修生代表者が「自己の成長を認めたい」と述べられ、研修の初日に書いた「1年後の自分へ」の手紙の内容を超えた学びの多い一年間だったと思います。今後もさらにスキルを積み重ね成長していかれる事を期待しています。

